

第一部

鹿児島大学 国際島嶼教育研究センター設置記念式典

Part I Opening Ceremony

講演要旨集 Proceeding

平成22年10月2日 (2010.10.2)

13 : 00 - 14 : 00

鹿児島大学共通教育3号館311教室

学長挨拶

吉田 浩己

鹿児島大学長

皆様、本日はご多用中にもかかわらず、国際島嶼教育研究センターの設置記念式典ならびにシンポジウムにお出でいただきありがとうございます。

鹿児島大学国際島嶼教育研究センターは平成22年4月に新たに設置されました。その前身は昭和56年から7年間存続した南方海域研究センター、その後昭和63年から10年間存続した南太平洋海域研究センター、そして平成10年から12年間存続した多島圏研究センターです。

鹿児島大学は、本土最南端に位置する総合大学として、伝統的に南方地域に深い学問的関心を抱き続け、多くの研究成果をあげてきております。これまでのセンターが研究対象地域としてきたオセアニアおよび周辺海域は、オセアニアという言葉が海洋を意味することからもわかるように海洋が圧倒的な部分を占める領域で、またオセアニアの大部分を構成するミクロネシア・メラネシア・ポリネシアは、「ネシア」という語尾が示すように島々からなる島嶼世界です。

センターでは、太平洋地域の熱帯・亜熱帯に展開する個々の島あるいは複数の島々が国家や地域を構成する島嶼域を対象として、大陸部とは異質の自然・人間・文明に関する研究成果を蓄積し、教育に生かしてきました。

今回の改組は、鹿児島大学憲章に基づき、「鹿児島県島嶼域～アジア・太平洋島嶼域」における鹿児島大学の教育および研究戦略のコアとしての役割を果たす施設とし、将来的には、国内外の教育・研究者が集結可能で情報発信力のある全国共同利用・共同研究施設としての発展を目指すものです。これからも、島嶼域の問題について、本大学の資源を集中し先進的かつ統合的な教育・研究を推進するとともに、各研究成果を地域に還元してまいります。

センターは平成22年度から開始する研究科横断的な教育システムでも主導的な役割を果たすことになっております。近年の学問の国際化・融合化により、幅広い分野の知識と柔軟な思考能力を持つ人材が求められています。鹿児島大学では、これらの社会の要請に答えるための取り組みの一つとして大学院の教育目標に沿い、大学院を横断して体系的に履修するまとまりのある全学横断的教育プログラム（『島嶼学』、『環境学』、『食と健康学』）が創設されます。プログラムを受講することにより、総合的な理解力や専門分野で得た知識を生かす能力を養うことを目標としています。

まず、平成22年度後期より「島嶼学教育コース」が開講されました。鹿児島大学では、南西諸島からアジア・太平洋島嶼域を重視した様々な教育・研究を行っています。島嶼学教育コースではこれら島嶼に関する様々な分野の授業科目を履修することにより、島嶼地域の様々な要請に応え、国際島嶼社会でも活躍できる人材の育成を目指します。島嶼学教育コースの修了証を得るための必須科目では、実際に十島村の中之島や三島村の硫黄島にでかけて講義の一部を行う予定です。

今後はよりいっそう教育および研究に努力してまいります。どうぞ率直なご意見、ご感想をお聞かせくださいますよう、よろしくお願い申し上げます。本日はありがとうございます。

President Greetings

YOSHIDA Hiroki

President, Kagoshima University

It is my great pleasure to have an opportunity to make a welcome speech at the opening ceremony of “Re-opening of the Research Center for the Pacific Studies” and the symposium “Nesia empowerment - Developing Island Futures”. I express our hearty welcome to all the participants both domestic and those who have come from overseas.

Kagoshima University, located in the southernmost prefecture of the four main islands of Japan, is a well established national university with eight faculties: Law, Economics and the Humanities, Education, Science, Medicine, Dentistry, Engineering, Agriculture, and Fisheries. Largely because of its southern location the University has concentrated on, and become best known for, its Oceanic and Southeast Asian Studies.

The Center was first set up in 1980 as an inter-faculty institution, the Research Center for the Southern Regions. In 1981, the Center evolved into the Research Center for the South Pacific (KURCSP), affectionately known by its Japanese acronym *Nankaiken*. The organization was taken over by the new and current Research Center for the Pacific Islands (KURCPI) in April 1998. Its activities have been supported by the University’s researchers, and by researchers from other domestic and overseas universities and institutions.

The Center has been aiming to promote interdisciplinary studies on islands and islands zones in Oceania and its surroundings. The results of the studies are combined to promote comprehensive understanding of islands and islands zones and to further the welfare of people in Oceania and its surroundings. These objectives are accomplished principally through the following five projects: People-Nature Interactions, Physical Geography, Social and Cultural Changes, Medical Approach to Human Ecology, and Political and Economic Functions of Island Nations in International Communities. The Center also plays a central role in a new education system called “Small Islands Studies (Nissology)” (島嶼学教育コース).

Thank you very much for attending this ceremony and symposium today.

(Translated by YAMAMOTO Sota)

Guest Greetings

ANDREW P. Renster

Deputy Chief of Mission, Embassy of the Federated States of Micronesia in Japan

To President YOSHIDA Hiroki, staffs of the Center, invited guests, and friends

I am greatly honored to be invited to this important occasion and to make a few remarks on behalf of Ambassador FRITZ John at the commemoration ceremony of the new start of the center. We join in the celebration to recognize the product of hard work and dedication of the staffs of the University who envision what we gather to witness today, the renewal and expansion of the Kagoshima University Research Center for the Pacific Islands. To us in the Pacific Island countries, we see the new start a commitment on the part of the University to involve more of its activities in the Pacific region. Data and vital information collected from the surveys conducted are important to the island governments to assist with the formulation of sound policies aiming at protecting, conserving, and managing our fragile ecosystem. The Center, in my view, is also intended to further enhance mutual understanding and friendship between people and governments of Kagoshima and Pacific Island countries.

Activities of the Kagoshima University Research Center for the Pacific Islands, a succession of the Kagoshima University Research Center for the South Pacific which was established some 29 years ago, have been supported by the governments of the Pacific Island countries including Micronesia. I personally got involved with activities of the Center this year with the study team assigned to Kosrae State. In a meeting with Professor NAGASHIMA, I said that local people believe the famous Kosrae Tangerine was originally brought in from somewhere in Japan. Could it be from Kagoshima? If that is the case, then, interactions between our two peoples may have started many years back. Names like Drs. INOUE, NEDACHI, YOSHIE, AOYAMA, TAKEDA, and NAGASHIMA are only few that are familiar to our local people.

I would like to commend the University and its able management and staffs for the true commitment and outstanding performance as evidence by this afternoon's event we come to celebrate. Likewise, the government of Japan through the Ministry of Education (*Monbusho*) and other supporters deserved our collective thank you for the financial support that keeps the Center going.

Again, the renovation and new start of the Center is indication that Pacific Islands and Kagoshima University have reaffirmed their intentions to work cooperatively for the betterment of the Center and Pacific Islands. I thank you all.

来賓挨拶

アンドリュウ P. レンスター

ミクロネシア連邦駐日公使

吉田浩己学長，国際島嶼教育研究センターの皆様，来賓の皆様，そして友人の皆様へ

国際島嶼教育研究センター設置記念式典に，フリッツ ジョン大使に成り代わり，一言ご挨拶をさせていただきますこと，誠に光栄に存じます。国際島嶼教育研究センターは，鹿児島大学の叡智を結集し，皆様の御尽力により設置されたセンターであると認識しております。心よりお祝いを申し上げます。

国際島嶼教育研究センターの調査によって得られる太平洋地域の資料や情報は，島嶼域の脆弱な生態系を保全，保護，維持するための政策立案に大きく寄与すると思われまます。またセンターは，鹿児島と太平洋島嶼国の人びとや政府の相互理解・交流をさらに深めると思われます。

国際島嶼教育研究センターは二九年前に設置された南方海域研究センターを前身とし，その継続した教育・研究活動は，ミクロネシアを含む太平洋島嶼国の政府によって支援されてきました。ミクロネシア連邦コスラエ州におけるセンターの学術調査に，私も個人的に関与いたしました。コスラエ州の特産品である「コスラエタンジェリン (Kosrae Tangerine)」が，日本（特に南方地域）から導入されたこととコスラエで考えられていることを，長嶋俊介教授（国際島嶼教育研究センター）にお伝えいたしました。もしかしたら鹿児島から導入されたのかもしれませんが。もしそうであったならば，鹿児島とコスラエは非常に古い時代から付き合いがあったこととなります。井上晃男先生（当時鹿児島大学多島圏研究センター，以下同様），根建心具先生（鹿大理），吉家清貴先生（鹿大医），青山亨先生（鹿大多島研），武田淳先生（佐賀大農），長嶋先生（鹿大多島研）は，現地の人びとによく知られた数少ない研究者です。

新たなセンターの設置記念式典・シンポジウムを主催した鹿児島大学の教職員に対して心より敬意を表したいと思います。また，国際島嶼教育研究センターが活動するために必要な経済的援助をしてくださっている文部科学省やその他後援の皆様には，厚く御礼を申し上げます。

最後になりますが，鹿児島大学国際島嶼教育研究センターが設置されたことを契機に，センターと太平洋島嶼国の良好な関係をさらに発展させるため，我々は鹿児島大学とより一層協力していきたいと考えております。ありがとうございました。

（翻訳：山本宗立）

国際島嶼教育研究センター紹介

野田 伸一

国際島嶼教育研究センター長

皆様、本日はご多用中にもかかわらず、国際島嶼教育研究センターの設置記念式典ならびにシンポジウムにお出でいただきありがとうございます。2010年4月に設置されました国際島嶼教育研究センターの紹介をさせていただきます。

鹿児島大学には、本土最南端に位置することから南方地域に深い学問的関心を持つ多くの研究者がいたことから、研究センター設置への期待がありました。昭和52年(1977年)に南方地域総合研究センターの創設の検討が始まり、昭和55年(1980年)4月に学内措置施設として南方地域総合研究センターが設置されました。昭和56年(1981年)4月には文部省令による学内共同教育研究施設としての南方海域研究センターが発足しました。その後、昭和63年(1988年)4月には南太平洋海域研究センターへ改組、さらに平成10年(1998年)4月には多島圏研究センターへ改組されました。そして、平成22年(2010年)4月に国際島嶼教育研究センターとなりました。

国際島嶼教育研究センターの基本概念は以下のようになっています。鹿児島大学憲章に基づき、『鹿児島県島嶼域～アジア・太平洋島嶼域』における鹿児島大学の教育および研究戦略のコアとしての役割を果たす施設とし、将来的には、国内外の教育・研究者が集結可能で情報発信力のある全国共同利用・共同研究施設(ナショナルセンター)としての発展を目指す。特に、島嶼域の問題について、本大学の資源を集中し先進的な教育研究を目指すとともに、各研究成果を地域に還元し、鹿児島大学の研究科横断的な教育システムにも役割を果たす』。

センターの組織は以下のようになっています。国際島嶼教育研究センターには文理融合型の島嶼環境領域・島嶼社会領域・島嶼適応領域の3領域を設定し、各領域には分野を置きます。それぞれの領域・分野には、旧多島圏研究センター教員と客員教員、鹿児島大学各学部・研究科および学内共同利用教育研究施設等の教員からなる専任または併任の担当教員を置きます。各領域内には専任教員1名以上を配置します。

具体的な組織は以下のようになっています。

- (1) **島嶼環境領域**：島嶼域の自然と社会の相互作用に注目し、過去から現在への遷移過程とその維持機構を解明する。領域に以下の分野を置く。**島嶼多様性分野**：島嶼における生物あるいは社会の多様性について教育研究を行う。**島嶼環境分野**：島嶼の自然環境について教育・研究を行う。**島嶼共生分野**：島嶼における人と自然の相互作用やその共生について教育研究を行う。
- (2) **島嶼社会領域**：島嶼社会における過去・現在そして今後想定される変化とその影響について研究し、その適応的方向性を検討する。領域に以下の分野を置く。**島嶼社会分野**：島嶼域の人々の社会、歴史、文化、並びにそれらの動態について教育研究を行う。**島嶼医療分野**：島嶼医療の問題を解決し、島嶼医療の発展を図るための教育研究を行う。**島嶼情報分野**：島嶼における情報活用に関する教育研究を行う。
- (3) **島嶼適応領域**：島嶼の変化に対応する適応策について、島嶼社会における実践的な教育研究を行う。領域に以下の分野を置く。**島嶼農畜産分野**：島嶼の農畜産業に関

する教育研究を行う。島嶼水産分野：島嶼の水産業に関する教育研究を行う。島嶼教育分野：島嶼における教育システムの教育研究を行う。

鹿児島大学では、重点研究プロジェクトとして「島嶼」、「環境」、「食と健康」の3つのコアプロジェクトが推進されています。国際島嶼教育研究センターはこの「島嶼」コアプロジェクトを担っております。島嶼コアプロジェクトは以下の3プロジェクトで構成されています。環境変動に対応する「国際島嶼教育研究拠点」形成プロジェクト（「島嶼の生物」、「社会の多様性と自然環境の連続性と独自性」、「島嶼における人と自然の相互作用と共生」）、島に生きる「島嶼社会」生活力向上プロジェクト（「島嶼社会の過去から現在までの動態」、「島嶼医療学」、「島嶼間の情報ネットワークの構築」）、それに地域社会発展のための適応策構築プロジェクト（「島嶼の農林・畜産・水産業の構造・現状と発展方策」、「島嶼の農林・畜産・水産資源の探索・活用」、「島嶼における地域学の確立」）。

時間が限られておりますので、ここでは「国際島嶼教育研究拠点」形成プロジェクトに関する活動を紹介します。南太平洋海域研究センター以来外国人客員研究員のポストがあり、多くの外国人研究員がセンターで活動してきました。これらの蓄積として、南太平洋大学（フィジー）、グアム大学、ハワイ大学とは特に強い結びつきがあります。また、最近のミクロネシア連邦での研究活動を通じて、ミクロネシア短期大学をはじめとする様々な機関との信頼関係が確立しております。本年度は専任教員と兼務教員の7人の参加で、「ミクロネシア地域における自然・社会環境と人々の生活に関する調査」をミクロネシア連邦ポンペイ州のポンペイ島および離島のモキール環礁とピンゲラップ環礁で8月5日～9月8日に実施しました。調査風景を紹介します（Photo 1 to 6）。この調査ではミクロネシア短期大学のスペンシン ジェームス学長の協力で多方面の研究活動を行うことができました。スペンシン ジェームス学長は昭和60年（1985年）に実施したミクロネシア連邦のポンペイ島とチュック諸島での調査で共同研究を実施した実績があり、今年の調査では全面的な支援をいただきました。

今後とも教育や研究に努力してまいりますので、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

On the New Center

NODA Shinichi

Director of Research Center for the Pacific Islands

Thank for attending the ceremony and symposium for the establishment of the Research Center for the Pacific Islands (the second phase). I will introduce the Research Center for the Pacific Islands (the second phase) established in April 2010.

In Kagoshima University, since there were many researchers having a deep academic interest in the southern area, there was an expectation for the establishment of the new research center. The research center was first set up in 1980 as an inter-faculty institution, the Research Center for the Southern Regions. In 1981, the Center devolved into the Research Center for the South Pacific. The term of the Center came to an end in March 1998. The organization was taken over by the Research Center for the Pacific Islands in 1998. The Center was reorganized into the Research Center for the Pacific Islands (the second phase) in April this year.

The basic concepts of the Research Center for the Pacific Islands (the second phase) are as follows. Under the charter of Kagoshima University, the Center serves as the core institution in the education and research strategy in "Kagoshima Prefecture islands region - Asia Pacific Island region", and the Center aims to develop as the national center. In particular, the Center will aim to conduct advanced education by concentrating resources and return results of research to the area. The Center will play a role in developing island-cultured courses in the Kagoshima University Graduate School.

The center organization is as follows. Three areas, island environments, island societies, and island adaptation, are focuses of the Center, and three fields are put on each area. More than one teacher is responsible for each field of the area.

The concrete organization is as follows.

- (1) **Island Environments:** Focused on the interaction of nature and society, to elucidate the mechanism of maintaining the current process and the transition from the past. The following fields are offered:
 - Diversity:** Conduct research and education on biological and social diversity in the islands.
 - Environment:** Conduct research and education on the natural environment of islands.
 - Symbiosis:** Conduct research on education and symbiotic interaction between man and nature in the islands.
- (2) **Island Societies:** Investigate the effectiveness of past, present and future anticipated changes in the island society and consider the direction of adaptation. The following fields are offered:

Society: Conduct research on society, history, culture, education and their dynamics in the islands.

Medicine: Solve medical problems in the islands, and conduct research to develop medical education.

Island Information: Conduct research on information use in the islands

(3) **Island adaptation:** Research and practical education on adaptation measures to respond to changes on the islands. The following fields are offered:

Agriculture: Conduct research and education on agriculture and livestock industries in the islands.

Fisheries: Conduct research and education on fisheries in the islands.

Education: Conduct research and education on the education system in the islands.

In Kagoshima University, priority research projects, “Islands Studies (Nissology)”, “Environment Science”, and “Health and Food Science” have been promoted by the three core projects. The Research Center for the Pacific Islands bears this “Islands Studies” core project. The “Islands Studies” core project is composed of the following three projects. *“International islands education research base” formation project corresponding to environmental change* (“Island living”, “Independence and continuity of social diversity and the natural environment”, “Interaction between people and nature in the islands”), *“Island Society” life improvement projects* (“Past and present social dynamics of island”, “Medicine in island”, “Information network between the islands”), and *Project for the development of community adaptation* (“Current status and development of the structure of agriculture, forestry, fishery and livestock”, “Search and use for agriculture, fishery and livestock”, “Establishment of regional studies in the islands”).

Because time is limited, I introduce only the activity about “International islands education research base” formation project. There was a foreign visiting researcher post at the Research Center for the South Pacific, and many foreign researchers came to the center. There is an especially strong relationship with the University of South Pacific (Fiji), the University of Guam and the University of Hawaii. Moreover, mutual trust with various organizations including the College of Micronesia is established through recent research activities in the Federated States of Micronesia. Surveys on the natural and social environment and people’s lives in the Micronesian region was carried out by seven researchers, 4 full-time staff members and 3 on-campus researchers, between 5 August and 8 September 2010 in Pohnpei Island, Mokil Atoll and Pingelap Atoll of Pohnpei State, Federated States of Micronesia. I will show you several pictures of the survey (Photo 1 to 6). This study was conducted with help of the President of the College of Micronesia, Dr. SPENSIN James.

We intend to continue working in education and research. We look forward to your support.

On the New Center



Photo 1. President of the College of Micronesia, Dr. SPENSIN James



Photo 2. Survey of mosquitoes



Photo 3. Survey of regional society



Photo 4. Survey of foods



Photo 5. Survey of geology



Photo 6. Survey of sea

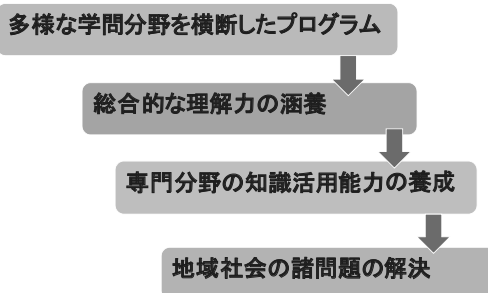
研究科横断型教育コース紹介

富永茂人

学長補佐・島嶼プロジェクト担当

1. 全学研究科横断型教育プログラム設置の目的

近年の学問の学際化・融合化により、幅広い分野の知識と柔軟な思考能力を持つ人材が求められていることから、鹿児島大学では、これらの社会の要請に応えるための取り組みの一つとして大学院の教育目標に沿い、各研究科における講義・実験・実習に加え、大学院を横断して体系的に履修するまとまりのあるプログラム「島嶼学教育コース」、「環境学コース（仮称）」および「食と健康学コース（仮称）」を創設し、これらのプログラムを受講することにより、総合的な理解力や専門分野で得た知識を活かす能力を養い、地域社会の諸問題を解決する能力を持つ人材の育成を目指すことになりました。それらのコースの人材育成ステップは右図の通りです。



なお、上記3コースのうち、「島嶼学教育コース」については平成22年度後期から開講し、残りの2コースについては平成23年度からの開講を目指しています。

2. 研究科横断型教育コース設置の背景

鹿児島大学の大学憲章では、前文で「鹿児島大学は、日本列島の南に位置し、アジアの諸地域に開かれ、海と火山と島々からなる豊かな自然環境に恵まれた地にある。この地は、我が国の変革と近代化を推進する過程で、多くの困難に果敢に挑戦する人材を育成してきた。このような地理的特性と教育的伝統を踏まえ、鹿児島大学は、学問の自由と多様性を堅持しつつ、自主自律と進取の精神を尊重し、地域とともに社会の発展に貢献する総合大学をめざす。」と、さらに【教育】では、「鹿児島大学は、学生の潜在能力の発見と適性の開花に努め、幅広い教養教育と高度な専門教育を行うとともに、地域の特性を活かした進取の気風を養う。国際社会で活躍する人材を育成する。」、【社会貢献】では「鹿児島大学は、南九州を中心とする地域の産業の振興、医療と福祉の充実、環境の保全、教育・文化の向上など、地域社会の発展と活性化に貢献する。」と謳っています。

また、平成22年～28年度の第Ⅱ期中期目標・中期計画では、【大学の特色を活かした研究活動】として「鹿児島大学は、独創的・先端的な研究を積極的に推進するとともに、総合大学の特色を活かし、島嶼、環境、食と健康等の全人類的課題の解決に果敢に挑戦する。」、【教育内容及び教育の成果等に関する目標】として、「地域社会の諸問題の解決に向けて、幅広い観点から取り組む人材を育成する。」、【国際化に関する目標】として「島嶼、環境、食と健康等の国際的課題の解決に貢献する。」などの目標を掲げています。その具体的実現のために、中期計画では【大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置】—【教育に関する目標を達成するための措置】—【教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置】—【大学院課程】で「島嶼、

環境、食と健康等の全学横断的な教育コースを創設するなど、大学院教育体制を整備・充実する。」ことを、同じく【研究に関する目標を達成するための措置】—【研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置】では「島嶼、環境、食と健康の研究領域を重点的に推進する。」と、教育の基礎となる計画を立てています。また、実施体制としては【研究実施体制等に関する目標を達成するための措置】として、「国際島嶼教育研究センターを設置し、学際的かつグローバルな研究を推進する。」という計画を掲げています。

以上が研究科横断型教育コース設置の背景となっています。

3. 研究科横断型教育コース履修の実際

(1) 履修対象者

プログラムを履修できるのは、本学大学院に在籍する学生です。

(2) 教育コース

プログラムには、平成22年度開講の「島嶼学教育コース」、平成23年度以降に「環境学コース（仮称）」および「食と健康学コース（仮称）」が開講される予定です。

* 「島嶼学教育コース」の人材育成目標は以下の通りです。

鹿児島大学では、南西諸島からアジア・太平洋島嶼域を重視した 多様な教育・研究を行ってきた。これら島嶼に関する様々な分野の授業科目を履修することにより島嶼地域の様々な要請に応え、国際島嶼社会でも活躍できる人材の育成を目指す。

(3) 履修費用

プログラムの履修には、費用はかかりません（ただし、プログラムの科目によっては、交通費等の実費が必要な場合があります）。

(4) カリキュラム等

- ・プログラムは、各研究科で開設する授業科目から構成されます。
- ・プログラムの修了に必要な単位（8単位以上）と所属する研究科の専攻の修了に必要な単位（30単位）との重複は、各研究科の定めるところにより一部認められます。その受講のイメージは下図のとおりです。
- ・プログラムは所属する研究科・専攻の修了年限期間内に受講する必要があります。
- ・「島嶼学教育コース」のカリキュラム例を下図に示しました。なお、「島嶼学教育コース」の最大の特色は、鹿児島県島嶼（三島村、十島村、奄美群島など）での実地教育が組み込まれていることである。

① 研究科の修了要件とプログラムの修了要件が重複しない場合

30単位	8単位	=38単位
------	-----	-------

② 研究科の修了要件単位のうち、4単位が修了要件に認められる場合 (研究科によって異なります)

26単位	4単位	+4単位	=34単位
------	-----	------	-------

(例)「島嶼学コース」のガリキュラム(平成22年度)

開講時期	前期	後期
コア科目 (必修)	島嶼学概論Ⅰ:総合島嶼学 (人文社会科学研究科)	島嶼学概論Ⅱ:総合島嶼学Ⅱ (農学研究科)
オープン科目 (選択)	離島・遠隔保健学特論 (保健学研究科)	文化人類学特論 (人文社会科学研究科)
	植物生態学特論 (理工学研究科)	島嶼・海浜生物教材研究(集中) (教育学研究科)
	離島医療学 (医歯学総合研究科)	水産生態学特論 (理工学研究科)
	水圏環境保全学特別指導(集中) (水産学研究科)	国際農業資源学特論 (農学研究科)

「島嶼学コース」コア科目は国際島嶼研七教員が担当
オープン科目は各研究科教員が担当

(5) 修了証

島嶼学教育コースの所定の単位を修得した学生には、自己申請により、大学院の課程修了時に学長名の修了証(右図)を授与します。すなわち、各研究科の修士の学位に加えて「島嶼学教育コース」修了証を貰うことになります。



(6) 履修手続き

全学横断的教育プログラムは、各研究科で行う履修登録と同様に各学期のはじめに、Web申請(鹿兒島大学ホームページ:大学院共通教育システム参照)で行います。

4. おわりに

鹿兒島大学の第Ⅱ期中期計画【研究に関する目標を達成するための措置】—【(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置】において、「島嶼、環境、食と健康の研究領域を重点的に推進する。」とも掲げています。これらの中期計画の実践および成果は「全学研究科横断型教育プログラム」に生かされることになっています。

また、本プログラムは、鹿兒島大学大学院教務委員会の下におかれる各教育コースの運営委員会において毎年のカリキュラムなどの編成について検討し、改善を加えていくことになっています。

On the New Educational Program

TOMINAGA Shigeto

Aide to the President, Kagoshima University

The background of the new educational program in the graduate school (“Small Islands Studies”, “Environment Science (tentative name)”, and “Food and Health Science (tentative name)”) is written in the Kagoshima University’s Basic Principle.

Kagoshima University’s Basic Principle

[Preface]

“Kagoshima University is located in the city of Kagoshima, the gateway to Japan’s islands. The region has a long history of pioneering and maintaining cross-cultural ties with people from overseas, and is the birthplace of many of the leaders of Japan’s modernization. The area is blessed with a bountiful natural environment, framed by oceans and islands, and is home to an array of local tradition and cultures that must be preserved for future generations. The university maintains academic freedom and diversity with a deep awareness of being at the threshold of a new epoch in which there is hope that all people in the world can live in prosperity. The university aims to be an integrated academic institution, cooperative in nature and striving to pursue a spirit of study based on truth, virtue, beauty, and encouragement, while cultivating independence and freedom. Besides its contribution to academic progress, the university is committed to the promotion of a fair society in which human rights are respected, international understanding is fostered, and in which there is concern for the maintenance of world peace and the protection of the natural environment. To these ends the university recognizes the need to cultivate human resources ethically and responsibly, to take up the challenge of solving the difficulties that face us all, and to make contact with and provide support for the community with a firm view to globalization.”

[Education]

“Kagoshima University is open to all students who show the eagerness and ability to learn. The university constantly focuses its efforts on the development of curricula and teaching methods that will stimulate students and help them develop their talents to the fullest extent. At the same time, the university keeps in mind how the education it offers can best follow on from secondary education and provides a springboard to future possibilities.”

[Relations with Regional and International Societies]

“Kagoshima University strives, as best it can to respond to the needs and requests of people from all spheres of activity, whether local or international in origin. The university aims to make available the results of research from its full range

of academic fields as rapidly as possible in order that information may be used to maximum benefit. The university contributes to the promotion and revitalization of local society by opening campus facilities to the public and organizing a variety of public programs. Through such programs and various international exchange activities, the university has become a major hub in an ever-expanding network of intellectual ties. While doing its best to contribute, the university also learns and benefits greatly from its involvement in these various activities.”

In these days, students are needed to have the power of flexible thinking and knowledge of various fields. Therefore, Kagoshima University has opened the new educational program in the graduate school. Students will be able to have wider view of the world and improve their specialty by taking several lectures in various Departments. The program “Small Islands Studies” began in Oct. 2010. If students take all credits needed for the program “Small Islands Studies”, they will get the certificate for “Small Islands Studies” in addition to the Master’s Degree for each Department. The other two programs will be opened in the next year.

(Translated and modified by YAMAMOTO Sota)